応答表現とゼミ発表の推進の関係について

-日本大学の「ゼミ」における談話分析-

S17（カナ表記）
S17（漢字表記）
学籍番号

Ⅰはじめに

近年、日本にゼミ（ゼミナールの略称）という高等教育において行われた授業科目が注目されている。ゼミは担当教員のご指導のもとで、少数の学生がある特定なテーマに関する討論、検討、研究などを行う教育方法としており、留学生教育に用いることもある。しかし、留学生を対象としてのゼミもう設けたが、実は、留学生の大多数にとっては日本語の語力が中級または上級であっても、ゼミの内容を十分に理解するのが非常に困難である。したがって、ゼミを最大限に留学生教育に利用するために、学部生と大学院生に向けるゼミの行い方を分析し、分析の結果から抜粋した点を留学生教育に用いり、その教育方法を改善することは今グロバーリズムの背景での高等教育に非常に重要なことと思っている。

大学ゼミの行い方への研究においてそれぞれの分野がある。ゼミ発表の質疑応答にある応答表現は自然的な表現であり、なければならないとわかるが、ゼミ発表の順調に進むことに対してどんな作用があるのだろうか。

そこで、本稿では大学院のゼミの談話を分析し、特に応答表現という点について、発表者が自分の応答表現と発表の連続性の関係について議論したいと思う。

Ⅱ先行研究と本研究の位置づけ

大学院のゼミの談話において応答表現について、前に多くの研究が出てきた。
一般的には、質問者が応答者より会話への主導性があり、応答者は聞かれた質問や意見などできるだけ応答する以外何もできなく、対話構造に力になれないという見方がある。しかし、会話は両方が話し合い、質問者が応答者とともに協力して対話を構造し、つまり両方も対話を主導することができることが多い。堀口（1997）は、会話における聞き手の役割を分類し、示している。そこでは、「会話において、聞き手は、話し手と同じように重要な役割を担っているのであり、その役割は話し手が会話において果たす役割と同等に評価されるべきである」と述べている。特にゼミで発表をする際、発表担当者は多くの時間に応答者つまり聞き手としており、質問者からの質問を回答しながら、発表を推進することがよくみられる。この点について、吉田（2009）次のような指摘をしている。

応答者による応答内容の選択によって、質問表現が使用された会話が構造的に促進する（維持される）という現象をとらえることができ、質問表現を分析する上で、応答者の発話の重要性を指摘することができる。

また、質問者と応答者が同じ情報をシェアする場合、応答者は質問者からの多義性を持つ質問を受け、後続する会話構造に工夫することができて、発話連鎖の飛躍がもたらされる。これに関し、吉田（2009）は、「発話の連鎖に飛躍がある現象は、共通の経験や知識が多い親しい間柄の会話に特徴的であると考えられるが、連鎖が飛躍したり、指示対象が推移したりしながら会話が進行することで、より内容が先取られた展開の速い会話へと繋がると考えられる」と述べている。

しかしながら、筆者は発話の連鎖に飛躍がある現象は親しい間柄の会話の特徴だけでな

く、話し手と聞き手が共通の情報がシェアすれば、そういう飛躍が現れると思う。ゼミで発表するとき、前に配られた資料と講義を共通の情報とし、発表担当者は質問を聞き、質問がまだ終わらない際に相手のわからない点を推測して相手の話を接続して応答することができる。発表者の応答はその飛躍を保障することである。平本毅（2011）によると、相手を理解したことに基づいて、自分の見解や態度を提示するためには基本形式が一つある。その基本形式は次のとおりである。

［①「私事語り」→　②「わかる」を含む文（①への理解の〈主張〉）→　③①への理解の〈立証〉の試み（であると同時に②の「理由の説明」）→　④①の語り手による、③への〈受け入れ〉］。

実際にゼミ発表の場合は、こういう形式をよく見られる。一般的には、この形式の②③④は聞き手あるいは発表者の応答という形で表現する。その状況で、発表する途中に出てくるその応答は聞き手が自分の質問が理解されると感じることを保障するにとどまらず、その結果、質問者が自分の質問への説明にかかる時間が少なくなり、発表の全体的に発表を推進することもできるだろう。

Ⅲ研究の資料と分析の方法

会話資料としてのは、2015 年 9 月に、神奈川県の三浦半島のホテルで行われた都内の大学院の某ゼミナールの 40 分程度の談話二つを文字化したものである。一つ目は日本語学習者を対象として、日本語でレポートを書くことについての調査の分析方法への質疑応答である。二つ目は日本語学習者と韓国語学習者を対象にし、絵本多読の効果を調べる発表を文字化資料である。その文字化データから応答表現の視点からデータを抽出し、応答表現とゼミ発表を推進することとの関係によって分析を行う。

Ⅳ分析の結果

会話 1 は日本語レポートについて質問者 S と発表者 A が話している。

01S：例えばですけど、T 検定だと、この二つのグループを比べるのには 100 名ですと、ま、50 とか、60、40 という風に、まあ、

02A：男性と女性とか。

03S：そうですね。ある程度結果は出やすいと思うんですけど、分散分析だと、3 グループ 4 グループ。

上記の会話資料では、質問者 S がどうしてグループを分けるいいのかについて自分の意見を申し上げ、発表者 A と話し合っている。01S で、S は毎グループにふさわしい人数について自分の考えを述べている。そのあと、02A では A が S の意思を推測し、「そうですね」という風に応答しなく、さらに進めてほかの分類標準を提出し、会話を進めていることは明らかなことである。03S のところで、S は「そうですね」と答えたあと、ほかの内容に逸脱してしまった。その理由は、S は自分の話したいことを A が十分に把握したことがわかるからだ。このように、順調に会話が進められるに至ることがわかる。

会話 2 は学習者の絵本多読について質問者 N と発表者 R が話している。

01N：はい、話が簡単な法に戻るんですが。インタビュー、学習者としてのインタビュー、韓国語を学習している方にも、

02R：したんです、はい。

03N：ですね。それも論文には生かしていく。たとえば、いかすとすると。

04R：はい、生かしていきたくて。て言うのは、その一、韓国語をしている人たちは全員

自分がいやっている会のメンバーなんですけど、絵本だけ読んでいるんですね。それで、、、（後略）

会話 2 の下線の部分を見てみよう。N の発話まだ終わらなく、R は相手の聞きたい点が正確に理解し、「したんです」と「生かしていきたくて」で接続して応答する。R は「わかる」という意味を自分の応答表現に反映し、十分に聞き手に伝えることができる。こうして、対話の連続性が強くなり、順調に発表を進めることは保証される。

今までの予備調査からまとめてみると、以下の三つの点になる。まず、両方が同じ情報をシェアする場合、単に話し手だけではなく、聞き手も対話の進めを控えることができる。次、ゼミナールにおける発表を研究対象として、メンバーが参加する質疑応答の部分では発表者が聞き手の役割を担い、自分の応答表現を控えることを通して質疑応答の進めを左右することが多いとわかる。最後に、発表者は質問者の質問を自分で推測して、質問がまだ済まないところで相手の話を接続して答えることで、対話がうまく進むことを保障する。

Ｖ参考資料

吉田睦（2009）「会話内の質問表現が持つ多義性　－応答表現から見る会話構築を中心に－」『つくば応用言語学研究』16 号　pp. 87-97
平本毅（2011）「他者を『わかる』やり方にかんする会話分析的研究」『社会学評論』62 号　pp. 153-171
堀口純子（1997）『日本語教育と会話分析』くろしお　p. 157

お願いします。
あ、すみません。

１、リストがあったので（発表者Ａ：はい）、こういうリストのものは全部取り入れてるんだっていうのは分かったんですが（発表者Ａ：あ、はい）、あのー、あ、先程の（発表者Ａ：はい）絵本リストですね。
リストので。
はい。

２、あのー、一般の公共の図書館にも広く所蔵されているもの、の中から選びました。
これは、えーと、そうですね。

３、実際に私たちが使わないような（発表者Ａ：音、ですね）感覚を（発表者Ａ：はいはい）表すような、ま、擬態語とも言えるか言えないかというような、
そうですね、本当に。

４、うーん、現段階では、どのような、はい、結論に結びつきそうな感覚を持っていらっしゃいますか↑。
現段階ではそのー（質問者Ａ１：はい）、学習者の人のインタビューをまだ（質問者Ａ１：はい）、

５、ま、絵本ではないわけですよね（発表者Ａ：えっとー）、その違いっていうのは↑。

あ、あの、多読ライブラリーっていうのは、絵が全ページに入っていて、絵の、
あれは絵本に入るんですね？

６、その、挿し絵が入っている本（発表者Ａ：はい）っていうのはいっぱいあるわけなんですけど、絵本っていうのは何をもって絵本って（発表者Ａ：あー、）みなすのかっていう。
そうですね。

７、その、わかち書きとか（発表者Ａ：はい）、そういった絵本特有の特徴ーが教育的に非常に効果があるという↑。
そうですね。絵で内容が理解できて

８、日本語で書かれていればOKです。
はい、分かりました。ありがとうございます。

９、私はちょっとわかんないんですけど（発表者Ａ：はい）、教えてもらえますか↑。
えっとですね。

10、日本語学校で実践する時も先生たちがそういうのをもとに絵本を選べるとか、それを、それを目指してるんですけど。
今おっしゃったことはすごく分かる、

11、ええとー、インタビュー、学習者としてのインタビューは韓国語を学習している方にも、
したんです、はい。
インタビューしてるんですね。

12、漢字とかはもう↑。
ないです。
使ってないですよね。

13、二つ目の実験でやっていることは、日本語の絵本をどうやって選んでいくかっていうことなので、ちょっと、そこは、迷っているところです。
はい、わかりました。そうなんですね。

14、あのー、絵本じゃない文章（発表者Ａ：はい）、との違いが。同じ分析でいいことになってしまう。
あー、そうですね。うん。

15、音を楽しむみたいな。
そうなんです。そうなんです。

16、スタートとしてというか、全レベル。
（間：6秒）そうなんだ。

資料２
1、例えばこの調査項目が、と言ったところでもう直すチャンスはないわけですね。
そうですね。

2、日本語力をもう少し具体的に、見ていくと、なんかこう、表現、文章に対する、その表現力
表現の産出
とか（発表者Ｂ：とか）、うーん、なんていうんですかね。も、もう少したぶん具体的（発表者Ｂ：具体的な命名）な命名をした方が（発表者Ｂ：はい）もうちょっと分かりやすいかなっていう。
分かりました。

3、また、その、因子の項目（発表者Ｂ：そう）とかも変わってくるー、
変わってきます。
し、たぶん名前も、その、ちょっとまた、集まった、

4、確かに、その第三因子の 17、20 番と 17 番はちょっとこう、違うものが入っているような感じがしてますね。
と思うので（発表者Ｂ：はい）。これに関しても、なんとなく上の第二因子に近いっていう。
そうですね。
そうですね。
うん、なのでまあ（発表者Ｂ：はい）、ちゃんと、なんていうんですかね

5、それはどういうグループとどういうグループ↑。
どういうグループ、かというと、まずあの、、、、
でもそうなると、例えばですけど、T 検定だと、この２つのグループを（発表者Ｂ：そうですね）比べる（発表者Ｂ：はい）のには 100 名ですと、ま、50 とか、60、40 というふうに（発表者Ｂ：はい）、まあ、
男性と女性とか
そうですね。

6、この属性の中に、その、日本語のレポート書いたことある人とない人といる↑
あ、レポート。

7、それはいいかどうかちょっと私もわかんないんですけど（発表者Ｂ：はい）、その点についてはどう考えていますか↑。
そうですね、あの。

8、それでしたら、内容じゃなくて、日本語力にやっぱり関係があるんじゃないか（発表者Ｂ：そうですね）と思います。
はい。そうですね、

9、例えば、第一因子だと、6 番の表記を間違って使っているかどうかとか、四因子に、たぶん、最初に 1 回、その一、
1 回やってみましたが、六因子が出ました。

10、ちょっと第四因子の外部要素に対する不安っていう時に（発表者Ｂ：はい）、えーと 15 番の（発表者Ｂ：そうですね）「冒頭のところが思いつかない」っていうところが入っちゃってるっていうのが、、、、あの、どういうものが、本来であれば他のグループに入る↑。
15 番のところですね↑。15 番は一応、あの、結果からみると

11、例えば第二因子とかに移ってくれると、（発表者Ｂ：それは）数学上そっちに移ってくれると好ましいっていう感じ↑。
そうですね。

12、ちょっとかぶってるところがあるんじゃないかっていうふうに。
かぶっているところ↑。
っていうのは、例えば、7 番「学術的な言葉を使いたいが分からなくて不安だ」（発表者Ｂ：はい）と、12 番の「レポートでよく用いられている表現がわからなくて不安だ」（発表者Ｂ：あっ）っていうのは、似たような感じのものを（発表者Ｂ：はい）指しているんじゃないかなと。
聞きたいことは実は別々のもので、7 番は特に語彙についてに注目していますが、12 番は表現。
あ、7 番は語彙（発表者Ｂ：語彙、はい）、12 番は表現（発表者Ｂ：表現）。あ、そうなんですね（発表者Ｂ：はい）。**あ、はいはいはい。分かりました。**で、もう一つは 8 番と 14 番。
8 番と 14 番。
はい。「書き言葉で書けているかどうか不安だ」と、14 番の「である」体と「です・ます」体（発表者Ｂ：はい）が、混在していることも、14 番が 8 番に入っているんじゃないかっていうふうに（発表者Ｂ：はい）考えて、
そうで
いるんですが。
あ、14 番はあの、文体の問題なんですけれども、8 番はあの、また語彙の問題に。
そうですね。8 番はもうちょっと大きい括りの中で↑。
そうですね。ま、確かにそういう感じが。
そうですね、はい。はい

13、で、今のところで、私（発表者Ｂ：はい）、因子って言っても分からないので、こう、2 番目のほうが一番不安を感じているところですか↑。
2 番目のほうというわけではなくて、今因子分析というのは、あの一、こちらの 25 の、こ、項目の中に共通因子を探るという、作業なんですけれども。
共通因子。
共通因子。っていうのは、こちらの 25 項目が共通因子からの影響も受けているし、

14、という手順なんですけれども、今はまだ。まずは第一部。

これから。
これからの。
そうですね、あの、読んでいて、淡々と、その 4 つの因子があって、その、ま、25 項目あって（発表者Ｂ：はい）、っていう感じだけだと（発表者Ｂ：そうですね）、どこに焦点を当てているか、
分析がまだまだ。
そうですね。読み取れないんで、そうですね、はい（発表者Ｂ：はい）。ありがとうございました。
今は、あのー、データ数も少ないので（笑い）。57、7 部。データ数は。足りないので。はい。
はい、分かりました。ありがとうございます。

集計：
１、　対話の進みに役立った応答表現は 33 カ所がある。
２、　「そうですか」、「ありがとう」といった役立たない応答表現は 28 カ所がある。
３、　「繰り返す応答」というのは、発話者の発話の内容に出てきたキーワードを自分の応答に引用して話すことである。合わせて 19 箇所が出てきた。
４、　「無意味応答」というのは、「そうですか」、「はい」「わかりました」などの相手の応答がいらない応答表現である。合わせて 28 箇所が出てきた。
５、　「飛躍の応答」というのは、聞き手が話し手の質問がまだ終わらないうちに、話し手の聞きたいことを推測し、その推測によって応答することである。合わせて 14 箇所が出てきた。
６、　筆者は「繰り返す応答」と「飛躍の応答」が会話全体に著しく役に立つと考えられるが、「無意味応答」も会話を進められるそれなりの役を担っていると思っている。「無意味応答」は聞き手が話し手の言ったことがわかるという意味を含め、「無意味応答」という形で話し手にこの意味を伝えられる。こうして、あまり意味がないながら、発表を推進できることになる。

応答	繰り返す応答	無意味応答	飛躍の応答
箇所	19	28	14

種類	内容の繰り返し	無意味の繰り返し
箇所	15	4